

令和7年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要(全体)

安城市総合交通会議 (安城市)

平成20年7月31日設置

令和5年4月1日 安城市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和5年4月～令和10年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・地域間幹線系統確保維持国庫補助金
- ・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

1.【Plan】協議会等を目指す地域公共交通の姿

<安城市の特性と背景>

- 愛知県のほぼ中央に位置し、人口187,609人（令和7年10月1日現在）総面積86.05 k m²。
地域特性でもある自動車関連企業が多いことから自動車分担率は7割近くであり非常に高く、公共交通の利用率は約1割と低い状況である。

公共交通が目指す姿

日常生活になじむ公共交通をみんなが利用することによって、気軽におでかけできるまち

（安城市地域公共交通計画 2023年度～2027年度）

基本方針 1

多様な交通手段が連携した公共交通ネットワークの維持・活性化

基本方針 2

将来の人口構造や社会情勢の変化に対応した公共交通サービス等の確保

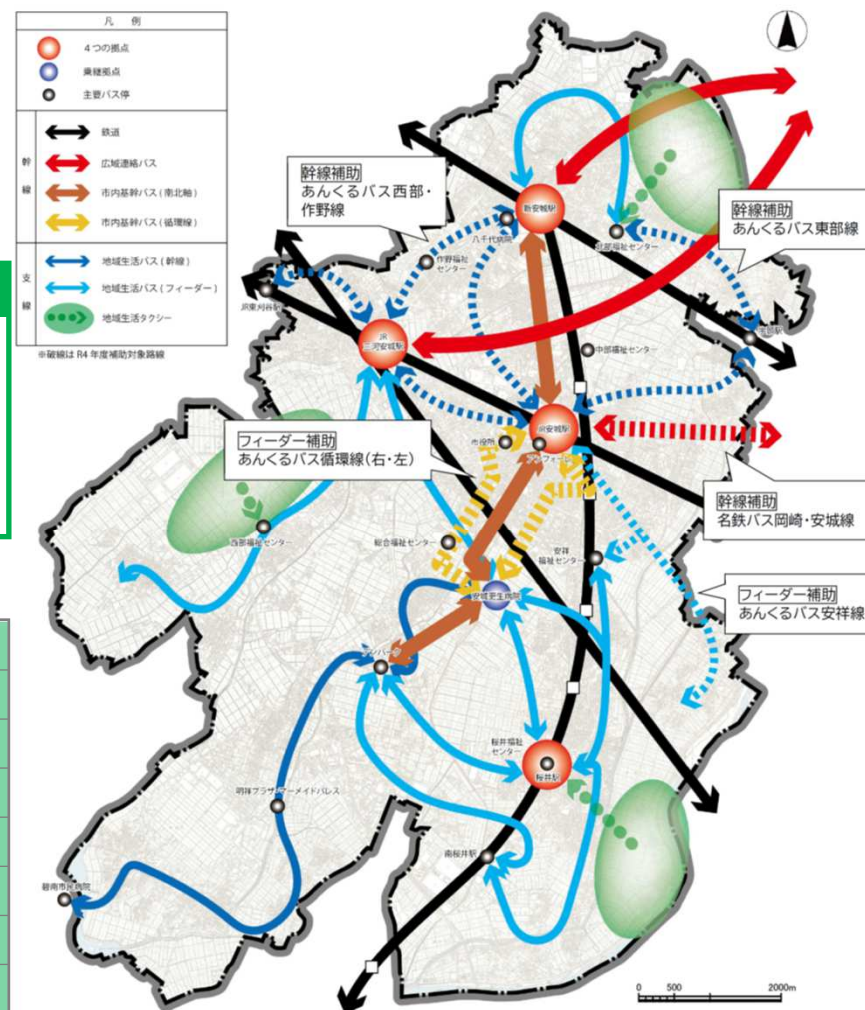
基本方針 3

持続可能な公共交通体系の構築に向けた関係者が連携・協働した利用促進施策の継続展開

目標を達成するために実施する事業

事業	基本方針 1	基本方針 2	基本方針 3
① サービス水準に応じた運行	●	●	●
② 名鉄バス安城線の維持・活性化	●	●	●
③ 名鉄バス岡崎・安城線の維持・活性化	●	●	●
④ あんくるバスのサービス改善	●	●	●
⑤ あんくるタクシーのサービス改善	●	●	●
⑥ 一般タクシーの利用促進	●	●	●
⑦ レンタサイクル事業の見直し	●	●	●
⑧ 公共交通の利用促進策	●	●	●
⑨ (仮称)地域の交通を考える会の取り組み	●	●	●

<ネットワーク概要図>



2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

＜これまでの主な取り組み＞ ※赤字は国庫補助対象事業

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察 ・今後の方針
★路線バス・コミュニティバスの継続運行 【①②③】 (フィーダー補助) (地域間幹線補助)	・路線バス・コミュニティバスの運行を継続 【フィーダー補助路線】 あんくるバス(3路線) 循環線右・左、安祥線 【地域間幹線補助路線】 あんくるバス(3路線) 西部線、作野線、東部線 路線バス(1路線) 名鉄バス岡崎・安城線	・前年度に比べて利用者が増加 あんくるバス11路線 (R6:57.6万人 →R7:60.8万人) 路線バス2路線 (R6:28.8万人 →R7:29.1万人) ※利用者数はバス年度	・各種施策の継続実施により 利用者は増加傾向 。 ・引き続き各種施策を実施し、新たな利用者の獲得を目指すことで、 利用者の更なる増加を図る 。 ・大型商業施設開業に伴う渋滞対策として、迂回運行を実施し、利用者に周知するためのバス案内人を配置するなど、安定した運行を実施した。 ・より安全な運行ルートを確認するため、地元町内会等と協議をし、最適なルート選択を検討する。
乗り継ぎ時における利便性向上施策検討【④】	・乗り継ぎの改善のため、北部線の運行ダイヤを改正	・北部線と東部線の乗り継ぎ時間を5分以上確保	・令和7年10月1日よりダイヤ改正を実施。チラシ配布による周知を実施するとともに、今後の乗り継ぎ状況を注視する。
新規バス停の設置【④】	・サービスの改善、利便性確保のため、大型商業施設等の開業に伴い新規バス停を設置	・JA産直施設、大型商業施設に新規バス停を設置	・民間商業施設等と連携した利用促進策を展開することで、より多くの利用者数の増加を図る。
レンタサイクル事業の見直し【⑦】	・24時間貸出可能な電動アシスト付自転車のシェアリングサービスを継続実施	・前年度に比べて利用件数が増加 (R6:11,883回 →R7:29,076回) ・自転車18台、ポート4か所増設 ・社会実験ポート3か所設置 ※利用者数はバス年度	・自転車6台、貸出返却用のポートを1か所増設 ・期間を区切った社会実験ポートを設置し、利用状況を確認しながら増設の判断を行う。
公共交通の利用促進【②③④⑤⑥⑧⑨】	・利用促進策の継続実施 ・小中学生無料キャンペーンの継続実施 ・時刻表・バスマップ、公共交通活用ガイドの改善 ・市内の高校と連携した利用促進ポスターの作成 ・地域・学校での公共交通の勉強会を実施 ・西部地域でモビリティマネジメントの実施	・前年度に比べてバス利用者が増加 ・無料券利用者数 →R7:6,439人) ・高校と連携して作成した利用促進ポスターをあんくるバス全線で車内掲示 ・地域や学校での勉強会実施回数9回	・各種施策により、 利用者は増加傾向 ・市内フィーダー系統だけでなく、市域をまたぐ地域間幹線の利用を促進するため、これまでの施策内容を改善しながら継続実施し、 公共交通でのお出かけを促進するための施策を検討・実施 する。 ・西部地域の取組が自立的な運営となるよう、継続的に支援するとともに、横展開を見据えた仕組みの構築を目指す。 ・他地域に展開するため、 出前講座等を活用して継続的に地域と関わり、公共交通に対して自分ごととしての意識醸成を図る 。



新規バス停「ららぽーと安城」



シェアサイクルポート増設



市内高校と連携した
利用促進ポスター

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

＜安城市地域公共交通計画における目標と評価指標＞

※公共交通計画における利用者数は会計年度の数値

計画目標	評価指標 目標値（R9）	達成状況	考察
		今回(R6年度)	
目標1 公共交通全体の利用者数	年間利用者数 (公共交通全体) 1,686万人	1,512万人	<ul style="list-style-type: none"> ・移動需要の回復及び各種施策の効果により、公共交通全体の利用者は増加傾向。 ・あんくるバスは大型商業施設開業等に伴い、全体的に利用者が増加しており、目標値を超える実績となった。 ・レンタサイクル数値はレンタサイクル事業廃止による事業変更によりシェアサイクルの利用者。シェアサイクルが公共交通を補完する役割を果たし、レンタサイクルよりも大きく利用者が増加している。
	(鉄道) 1,520万人	1,371万人	
	(路線バス) 30万人	29万人	
	(あんくるバス・あんくるタクシー) 56万人	58万人	
	(一般タクシー) 80万人	52万人	
	(レンタサイクル) 0.6万人	(シェアサイクル) 1.6万人	
	R7地域間幹線系統 西部線 59,900人 作野線 58,300人 東部線 33,100人	<ul style="list-style-type: none"> ・西部線69,518人(前年比109%) ・作野線73,447人(前年比110%) ・東部線32,530人(前年比99%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型商業施設開業等に伴う影響や各種施策の効果により、西部線・作野線は目標を達成。 ・東部線においては、回復傾向にあるものの目標に対して未達のため、乗り継ぎのダイヤ改善等で利用者の増加に努める。
目標2 あんくるバス・あんくるタクシーの利用者1人当たりの市負担額	646円（計画策定時点現値）未満	477円	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の増加に伴い、1人あたりの市費負担額は前年度に引き続き減少。
目標3 「(仮称)地域の交通を考える会」の立ち上げ	新規立ち上げ	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的な運営に向け、モデル地区を継続的に支援するとともに、横展開を見据えたを仕組みの構築を目指す。 ・他地域に展開するため、出前講座等を活用して継続的に地域と関わり、公共交通に対して自分ごととしての意識醸成を図る必要がある。

※緑着色部は、令和7年度地域間幹線系統及び地域内フィーダー系統確保維持改善計画における目標値及び実績値（R6.10～R7.9）

4.【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針 の作成

＜安城市地域公共交通計画における現在の到達点と次年度以降の取組方針＞

計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none">・公共交通全体の利用者数は昨年度に比べて回復傾向 (補助路線も同じ傾向)	<ul style="list-style-type: none">・これまでの施策を改善しながら継続実施する。・民間商業施設等と連携した利用促進策を実施することで、より多くの利用者数の増加を図る。・利用者の回復が遅い一般タクシーについて、事業者や他部署と連携した活用方法を検討する。・小中学生夏休み無料キャンペーンなど、未成年にあんくるバスを知ってもらえる事業を実施することで、将来的な利用者の増加を促していく。・安心してバスを利用してもらえるよう、代車運行や工事による迂回運行等、SNSを活用した情報発信に努める。・シェアサイクルについては、社会実験ポートを設置し、需要を確認しながら利用者の増加に努める。
<ul style="list-style-type: none">・あんくるバス・あんくるタクシーの利用者1人当たりの市負担額は減少	<ul style="list-style-type: none">・今後の人件費・物価高騰により、市負担額の増加が見込まれることから、利用促進策を引き続き実施するとともに、必要に応じて事業の効率化による事業費の削減や収入の増加等を検討し、目標達成状況を維持するように努める。
<ul style="list-style-type: none">・「(仮称)地域の交通を考える会」として「福釜町コミュニティ交通検討会」が立ち上がり、自律的な運営に向けた支援を実施。	<ul style="list-style-type: none">・計画目標である「(仮称)地域の交通を考える会」の自主的な運営に向け、モデル地区を継続的に支援するとともに、横展開を見据えた仕組みの構築を目指す。・地域が主体となった取組を他地域に展開するため、出前講座等を活用して継続的に地域と関わり、公共交通に対して自分ごととしての意識の醸成を図る。

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

年度	二次評価結果	事業評価結果の 反映状況 (具体的対応内 容)	今後の対応方針
前回	<p>評価できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ららぽーと安城開業に伴う交通渋滞を想定した迂回ルートの設定等、関係者と連携しながら検討されていることを確認しました。 ・公共交通活用ガイドの作成、乗り案内等の継続実施のほか、運行事業者、地元高校生と連携したあんくるバスの行動プラン作りなど、新しい利用促進施策に取り組んだことを評価します。 ・接続する地域内フィーダー路線も意識し、地域間幹線系統である名鉄バス岡崎・安城線の路線改変を行い、利便性向上に向け取り組んだことを確認しました。 ・バスの待合環境改善に継続的に取り組んだことを確認しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ららぽーと安城開業に伴う迂回運行を実施し、利用者に周知するためのバス案内人を配置するなど、安定した運行を実施するとともに、交通渋滞が落ち着いた段階で敷地内に乗り入れる新規バス停を設置し、利用促進を図った。 ・西部地域での取組を継続的に支援しつつ、他地域でも出前講座を実施するなど意識醸成を図った。 ・公共交通活用ガイドの作成、バス案内人による乗り案内の継続実施の他、小中学生夏休み無料キャンペーンや高校生と連携して作成した利用促進ポスターをあんくるバス全線に車内掲示するなど利用促進策を実施。 ・地域幹線系統である名鉄バス岡崎・安城線の路線改変後の利用状況を注視するとともに、シェアサイクルポートを設置することで他路線への連携及び利用者の増加を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通全体の利用者は回復傾向であるため、これまでの施策を継続実施するとともに毎年度実施内容を評価・検証し、翌年度の事業に反映する。 ・ららぽーと安城開業等に伴う利用需要の増加に対応するため、バス車両の大型化を実施し、利用しやすい環境を整える。 ・計画目標である「（仮称）地域の交通を考える会」の自立的な運営に向け、モデル地区を継続的に支援するとともに、横展開を見据えた仕組みの構築を目指す。 ・地域が主体となった取組を他地域に展開するため、継続的に出前講座等を活用して地域と関わり、公共交通に対する意識の醸成を図る。 ・小中学生夏休み無料キャンペーンの実施をとおり、未成年にもあんくるバスを知ってもらい、将来的な利用者の増加を促していく。 ・安心してバスを利用してもらえるよう、代車運行や工事による迂回運行等、SNSを活用した情報発信に努める。 ・民間商業施設等と連携した利用促進策を実施することで、より多くの利用者数の増加を図る。
	<p>期待する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ららぽーと安城やJ Aの産直施設の開業等も踏まえ、交通事情や利用需要等の変容を把握し、引き続き適切な地域内交通の構築に向け取り組まれることを期待します。 ・目標に掲げる「（仮称）地域の交通を考える会」設置に向け、モデル地区である西部地域での取組を他地域にも展開し、各主体と連携して取組が進められることを期待します。 		

※前回：令和7年3月27日付け通知

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

年度	二次評価結果	事業評価結果の 反映状況 (具体的対応内 容)	今後の対応方針
前々回	<p>評価できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通を利用した大河ドラマ関連施設へのおでかけを促すチラシの作成・配布により、あんくるバスの利用者増加につながったことを評価します。 ・引き続き、バスの待合環境改善のために危険なバス停の解消に努めたことを評価します。 ・市内の2地区にてにおいて公共交通に関する勉強会の実施を支援し、市民の公共交通に対する意識醸成を図ったことを確認しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座等を活用した公共交通に対する意識の醸成や、地域住民が自ら移動に関する取り組みの支援を検討。 ・公共交通活用ガイドの作成、バス案内人による乗り方案内、小中学生夏休み無料キャンペーン、安城市の広報における特集ページを掲載する等の利用促進施策を継続実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通全体の利用者は回復傾向であるため、これまでの施策を継続実施するとともに毎年度実施内容を評価・検証し、翌年度の事業に反映する。 ・地元高校生と連携し、あんくるバスの行動プラン作りといった利用促進施策を進めるとともに、小中学生夏休み無料キャンペーンを含め、未成年にあんくるバスを知ってもらえる事業を実施することで、将来的な利用者の増加を促していく。 ・あんくるバス循環線においては、令和7年6月頃にオープンするJAの新しい産直施設へアクセスできるよう最寄りのバス停を設置するなど、利用者の利便性を高め、より多くの利用者の増加を図っていく。 ・出前講座等を活用して地域と関わり、公共交通に対する意識の醸成を図る。
	<p>期待する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標に掲げる「(仮称)地域の交通を考える会」の設置に向け、今後も継続して地域住民等の意識醸成等につながる取組を実施することを期待します。 ・公共交通の利用者は増加傾向にありますが、これが継続されるよう、近隣自治体、運行事業者、地域と連携して、利便性向上につながる取組が継続されることを期待します。 ・また、運転手の確保対策等、公共交通の持続可能性を確保する観点からの取組や支援についても検討・実施されることを期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記のほか、運行事業者、地元高校生と連携したあんくるバスの行動プラン作りなど、新しい利用促進施策も推進。 ・民間協力も含めたバス待合環境の改善。 ・運行事業者と連携し、地域幹線系統である名鉄バス岡崎・安城線において、効果的な路線変更を実施。当該路線及び各フィーダー系統の利用者の増加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画目標である「(仮称)地域の交通を考える会」設置のモデル地区となっている西部地域で、地域が主体となって実施した「ボランティアカーの実証実験(2回)」や、「行動プラン法を用いたあんくるバスのモビリティマネジメント」、「移動に関するアンケート」などの結果をモデル地区の住民はもとより、他地域の住民とも共有し、住民と行政が一緒となって、移動に関する取組を検討できるよう努める。

※前々回：令和6年3月21日付け通知

6.計画・評価の推進体制

- ・PDCAサイクルを毎年繰り返し実施することで効果的に事業を推進する
- ・計画期間内及び年度単位において、計画の進捗管理・評価を毎年度実施し、評価内容に応じて、次年度以降の事業への反映や計画の部分見直し等を実施する
- ・中間年度及び最終年度においては、実施事業の効果や達成状況を総合的に捉え、評価指標の達成状況を評価・検証する

表 計画期間における進捗管理・評価スケジュール

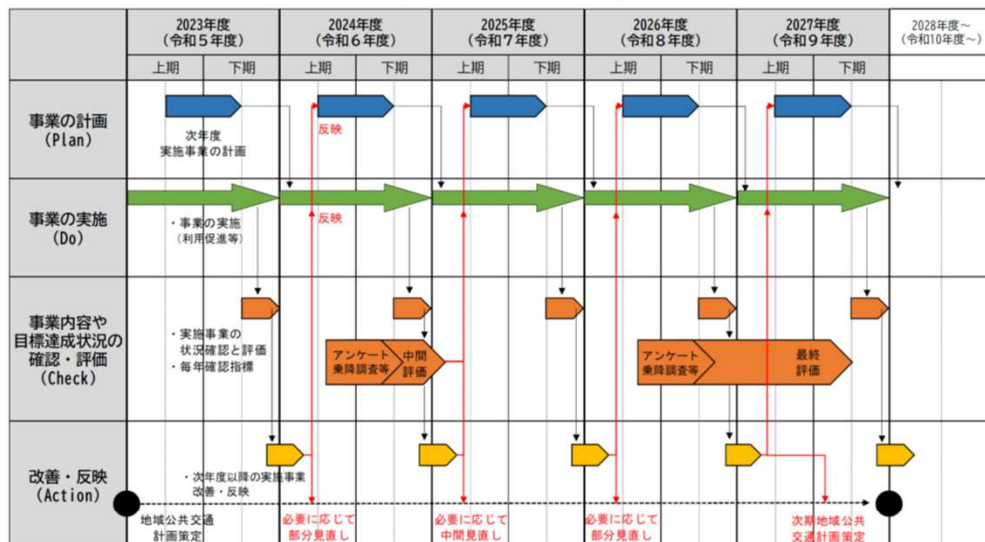
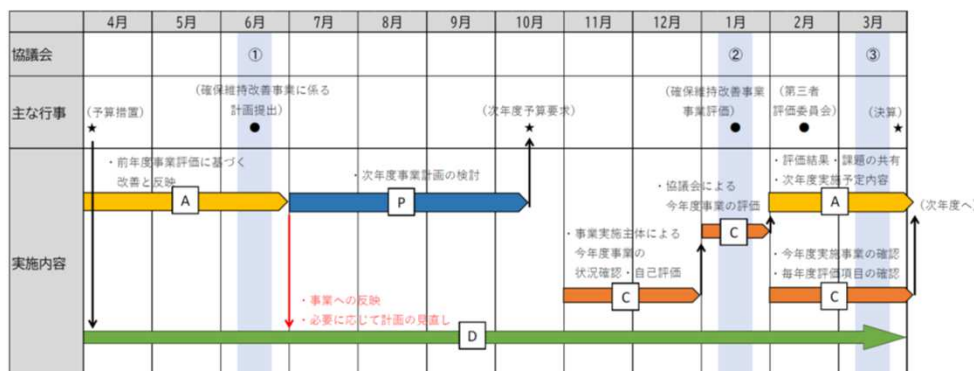


表 年度単位の進捗管理・評価スケジュール



【直近1年間の協議会の実施状況】

○令和7年度第1回安城市総合交通会議 6月23日

【主な内容】

- ・令和8年度地域公共交通計画認定申請について
- ・令和6年度決算について
- ・令和6年度公共交通の利用状況について

○令和7年度第2回安城市総合交通会議 12月24日

【主な内容】

- ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

○令和7年度第3回安城市総合交通会議 3月13日
(予定)

【主な内容】

- ・令和7年度事業報告について
- ・令和8年度事業計画・予算について